

目次

頁

提言の要約	1
1. はじめに	3
2. 現状分析	3
(1) ごみの発生状況	3
(2) 国の方針	4
(3) プラスチックごみの処理状況	4
①プラスチックごみのマテリアルフロー	
②プラスチックごみのリサイクル状況	
③プラスチックごみの分別状況	
④プラスチックごみの分別に対する住民意識	
(3) ごみ処分にかかる費用	8
①ごみ焼却時の種類別発熱量	
②プラスチックごみ処理にかかる費用	
(4) ごみ焼却施設の状況	9
①ごみ焼却施設の現状	
②ごみ焼却施設における発電の状況	
③ごみ焼却施設におけるダイオキシンの状況	
3. 課題	10
(1) プラスチックごみの分別が煩雑	10
(2) 現状のリサイクル処理では行政負担が大きい	11
(3) リサイクル推進とごみ発電が相反する	11
4. 課題の整理	11
5. 提言	12
6. おわりに	14

提言の要約

持続可能な循環型社会の形成 ～プラスチックごみリサイクルを問い直す～

現状分析

- ・「容器包装リサイクル法」により、循環型社会を構築するマテリアルリサイクル重視の政策が今も続いている。
- ・プラスチック製品の多種多様化によって、住民にとってわかりにくい分別となっている。
- ・プラスチックは、密度が小さいため運搬コストが高く、複合材のためさらに細分別の手間がかかり処理費用が高くなる。
- ・プラスチックの高い発熱量を生かし焼却時に添加することで発電量の増大が見込まれるが、リサイクルによりプラスチックが除去されることで発電量が低くなっている。

課題

プラスチックごみの
分別が煩雑

現状のリサイクルでは
行政負担が増大

リサイクル推進と
ごみ発電が相反

提言

サーマルリサイクルへの転換と有効活用

効果

- ・ **処理経費の削減**
(発電による収入・処分費の縮減)
- ・ **住民負担の軽減**
(ごみ分別等の簡易化)